

「障がいのある子どもを支える保護者や関係機関との連携」

| | | | |
|---|---|---|-----|
| 日時 | 平成29年9月26日（火） | 受講者 | 34名 |
| 目的 | 支援が必要な幼児児童生徒の保護者や関係機関に対して、教育相談の観点からより良い支援の在り方について理解を深め、資質の向上を図る。 | | |
| 講義1 | 「子どもの成長を共に支える保護者や関係機関との連携の進め方」 | 特別支援教育センター 主任指導主事 五十嵐登美 | |
| 講義2・演習 | 「教育相談で大切なこと」 | 特別支援教育センター 統括特別支援教育コーディネーター 内藤裕美 | |
| 協議 | 「子どもの成長を共に支える保護者との連携の在り方」 | 特別支援教育センター 主任指導主事 五十嵐登美 他4名 | |
| <p><講義1> 「子どもの成長を共に支える保護者や関係機関との連携の進め方」 講義を通し、保護者や関係機関との連携において大切にしたい考え方や、子どもの成長を共に支えるための具体的な取り組みについて確認しました。 ○保護者の状況・背景を考える ○信頼関係を築くために ・保護者の気持ちを受けとめる ・具体的に話を聞き取り、対応を共に考える 等 ○保護者との効果的な話し合いのために ・具体的な子どもの姿や学校の取り組みを伝える ・第三者の協力を得る（関係機関との連携） ・個別の教育支援計画の作成と活用 等</p> | <p><講義2・演習> 「教育相談で大切なこと」 保護者との教育相談において大切にしたい視点やお互いの「ちがいを意識すること、相談の技法等について、演習を交えながら学びました。 ・「傾聴・共感・受容」（カウンセリングマインド） ・「質問」や「リフレーミング」（物事の枠組みを今までとは違った角度から見てみる）など</p> |  | |
| <p><協議> 「子どもの成長を共に支える保護者や関係機関との連携の在り方」 1グループ6～7人に分かれ、事例について協議を行いました。保護者や関係機関との関係・連携で課題となっていることを整理し、今後のより良い連携の在り方についてアイデアを出し合いました。その際、「保護者の背景・状況を考える」視点を大切にしながら話し合いを深めました。後半は、1グループごとに2つの班に分かれ、3～4人で話し合いを進めました。1事例30分の設定でじっくりと保護者の状況や背景を考えることや、今後の具体的な対応について考える機会になりました。</p> |  | | |
| 受講者の感想 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ いつもとは違った視点から保護者支援を考えられる機会になりました。（幼稚園教諭） ○ 日頃の自分の実践の言語化のよい機会でした。煮詰まっていた感から一步踏み出せそうです。（小学校教諭） ○ 違う校種の先生方のお話を聞いたり、アドバイスをいただいたりし大変参考になった。（中学校教諭） ○ 特別支援に限らず、保護者対応の勉強になった。具体的な対応を知れてよかった。（高等学校教諭） ○ 保護者の背景や心情について深く考察することができました。これまでの自分の保護者とのかかわりを見つめ直す機会となりました。（特別支援学校教諭） | | | |

